ロシア文化フェスティバル 2025 IN JAPAN

Фестиваль российской культуры в Японии-2025

МИНИСТЕРСТВО КУЛЬТУРЫ РОССИЙСКОЙ ФЕДЕРАЦИИ

ウラノワは、魂そのものが踊る輝きがある。――森下洋子

ミニレクチャーと出演映画作品で知る
「バレエの神様」ガリーナ・ウラノワ（1910-1998）

ガリーナ・ウラノワ 生誕115周年記念 映画祭

2025年
7月4日（金）開場 12:30

浜離宮朝日ホール小ホール

中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2F（都営大江戸線「築地市場駅」（A2出口）すぐ）

入場料：1,000円（一日券） 全席自由
お問い合わせ：株式会社ロシアン・アーツ ☎03-5919-1051（平日11:00-17:00）

13:00 ミニレクチャー「ウラノワの芸術」村山久美子（バレエ評論家）
13:30 ドキュメンタリー映画「ガリーナ・ウラノワ」（1963年）
14:40 バレエ映画「ロミオとジュリエット」（1954年）

主催／ロシア文化フェスティバル日本組織委員会、共催／日ロ文化サロン（東京）
協力／映画コンツェルンモスフィルム、ロシア連邦国立映画フィルム財団

МОСФИЛЬМ

ГФФ ГОСФИЛЬМОФОНД

ГОСФИЛЬМОФОНД РОССИИ

写真提供/ベーリイ・ゴーラド社

ガリーナ・ウラノワ
Galina Sergeevna Ulanova

舞踊家。1928年レニングラード舞踊学校後、国立オペラ・バレエ劇場(現:マリインスキー劇場)専属となり、次々と古典と新作に主演し、とくに「白鳥の湖」の主役は彼女によってはじめて完璧な形象化に成功したと評された。1944年ボリショイ劇場に移籍。パヴロワに次ぐ世紀の舞姫とうたわれたが、1960年舞台を退き、その後はボリショイ劇場の教師として後進の指導にあたった。

(平凡社「ロシアを知る事典」より)

ミニレクチャー
「ウラノワの芸術」

講師　村山 久美子(むらやま・くみこ)

舞踊史・ロシア舞台芸術史家、舞踊評論家。早稲田大学大学院博士課程満期終了。ハーバード大学大学院、ロシア国立プーシキン記念ロシア語大学留学。早稲田大学、工学院大学、東京経済大学、青山学院大学、同大学大学院で、非常勤講師として、舞踊史、ロシア・バレエ史、ロシア語の講義、ストリートダンスの実技を担当。読売新聞、日経新聞、ダンスマガジン、各種公演プログラム等々に、1980年代前半から舞踊評論を寄稿。著書に、「バレエ王国ロシアへの道」(東洋書店新社)、「二十世紀の10大バレエダンサー」(東京堂出版)、「知られざるロシア・バレエ史」(東洋書店)他。訳書に、「ワガノワのバレエレッスン」(新書館)他。

ガリーナ・ウラノワ生誕115周年記念映画祭

上映作品

ドキュメンタリー映画
「ガリーナ・ウラノワ」(1963年／56分)

アンナ・パヴロワ以来の伝説のバレリーナとして、世界中から熱い視線を浴び続けたガリーナ・ウラノワのドキュメンタリー。『ジゼル』など彼女の名舞台を中心に綴る。

(「DVD NAVIGATOR」データベースより)

バレエ映画
「ロミオとジュリエット」(1954年／93分)

(モスフィルム公式サイトよりバレエ映画「ロミオとジュリエット」)

ソ連国立ボリショイ劇場におけるバレエ“ロメオとジュリエット”の公演を全幕カメラに収めたもの。同劇場所属のバレエ団及び管絃楽団が総出演しているが、1955年第8回カンヌ映画祭で“詩的幻想映画賞”を獲得した。スターリン賞を得たレフ・アルンシュタムとレオニード・ラヴロフスキーが脚本・監督を共同担当し、音楽は同バレエの作者S・プロコフィエフの原作によっている。撮影はA・シェレンコフとイオランダ・チェン・ユーラン、美術はアレクサンドル・パルホメンコ。主な登場者としてはジュリエットに「大音楽会」と同じくガリーナ・ウラノワが扮する他、ロメオに「バフチサライの泉」のY・ジダーノフ、マーキュシオにS・コーレニ、ティバルトにA・エルモラーエフ、ベンヴォーリオにV・クドリヤショフなど。モスフィルム製作。

(映画com.データベースより)

『ある少女の物語』
ガリーナ・ウラーノワの半生
マグダリーナ・シゾワ(著)
柴田洋二、イリーナ・ミロノワ(共訳)

20 世紀最高のバレリーナの一人、**ガリーナ・ウラーノワ！**
いかにして彼女は、当時の厳しい環境の中、多くの困難を乗り越え、バレリーナとしての道を究めたのか
展望社、定価2,000円(税込)